



# Sun StorEdge™ 6920 システム ご使用にあたって

---

Release 3.0.1

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-5525-12  
2007 年 2 月, Revision 01

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Solstice DiskSuite, Sun Cluster, および Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。Legato, Legato のロゴマーク、および Legato NetWorker は、Legato Systems, Inc. の登録商標です。Netscape, Netscape Navigator, および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun StorEdge 6920 System Release Notes Part No: 819-4889-12 Revision 01
-----	---



# 目次

---

Release 3.0.1 の新機能	2
リモートデータ複製	2
300G バイトドライブのサポート	3
外部ストレージとしての Sun StorageTek 6140 アレイのサポート	3
夏時間の更新	4
サポートされるソフトウェアとハードウェア	4
サポートされる Web ブラウザ	5
サポートされる追加のデータホストソフトウェア	5
NetWorker PowerSnap Module ソフトウェア	7
PowerSnap Module ソフトウェアのダウンロード	7
必要なソフトウェア	7
NetWorker PowerSnap のライセンス	7
評価用資格コード	8
インストールの手順	8
NetWorker PowerSnap のマニュアル	9
サポートされるファイバチャネルスイッチ、HBA、データホスト、およびオペレーティングシステム	9
サポートされる言語	9
Release 3.0.1.26 へのアップグレード	10
システム利用上の制限	10

リリースのマニュアル	12
Release 3.0.1, Build 26 の既知の問題	14
Release 3.0.1 に該当しないその他の既知の問題	15
ソフトウェアの問題点	15
構成および要素管理ソフトウェア	16
データサービスプラットフォームのファームウェア	33
Storage Automated Diagnostic Environment	35
国際化	38
構成管理ソフトウェア	39
Storage Automated Diagnostic Environment	39
その他	40
既知のマニュアルの注意事項	50
sscs CLI のマニュアルページの訂正	50
create profile	50
list initiator	51
modify volume	51
ボリュームのスナップショットリザーブ空間の拡張	51
『ご使用の手引き』の訂正	51
システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正	53
完全停止後のシステム復元	53
整合性グループ内での複製セットの合成	54
『Best Practices Guide』の訂正	57
リモート複製	57
その他のマニュアルの誤り	58
サービスに関する問い合わせ先	59

# Sun StorEdge 6920 システム Release 3.0.1 ご使用にあたって

---

本書には、製品マニュアルの発行時には入手できなかった Sun StorEdge™ 6920 システムソフトウェア Release 3.0.1 に関する重要な情報が含まれています。本書をお読みにになり、システムソフトウェア Release 3.0.1 を実行している Sun StorEdge 6920 システムのインストールおよび動作に影響を与える可能性がある問題や要件を確認してください。

---

**注** – ここに記載されているリリース情報は、ビルド 26 (Release 3.0.1.26) 用に更新されています。

---

この文書は、次の節で構成されます。

- 2 ページの「Release 3.0.1 の新機能」
- 4 ページの「サポートされるソフトウェアとハードウェア」
- 10 ページの「Release 3.0.1.26 へのアップグレード」
- 10 ページの「システム利用上の制限」
- 12 ページの「リリースのマニュアル」
- 14 ページの「Release 3.0.1, Build 26 の既知の問題」
- 15 ページの「ソフトウェアの問題点」
- 50 ページの「既知のマニュアルの注意事項」
- 59 ページの「サービスに関する問い合わせ先」

---

# Release 3.0.1 の新機能

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.0.1 には、次の新機能が追加されています。

- リモートデータ複製
- 300G バイトドライブのサポート
- 外部ストレージとしての Sun StorageTek 6140 アレイのサポート
- 夏時間の更新

この節では、これらの機能について簡単に説明します。詳細は、製品のマニュアルを参照してください。

## リモートデータ複製

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェアの Release 3.0.1 では、リモートデータ複製のサポートが追加されました。この機能を使用すると、ボリュームのデータを二次ストレージデバイスへ定期的にコピーできます。この二次ストレージデバイスは、元の(一次)ストレージデバイスから離れた場所に設置するようにしてください。一次ストレージデバイスで障害が発生した場合は、二次ストレージデバイスが即座に一次デバイスになり、オンライン状態になります。

複製プロセスでは、最初に障害回復サイトにある二次ストレージデバイス上に、一次データの完全なコピーが作成されます。複製プロセスでは、このコピーを基礎としてデータの変更がすべて記録され、変更内容が二次サイトに転送されます。

適切なセキュリティーの設定方法については、CSO (Client Solutions Organization) までお問い合わせください。

## 300G バイトドライブのサポート

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェアの Release 3.0.1 では、300G バイトドライブのサポートが追加されました。

サポートされているほかの容量のドライブと同様に、最大記憶容量 2T バイトの仮想ディスクを使用できます。300G バイトドライブで実際に使用可能な容量は 279.397G バイトです。

## 外部ストレージとしての Sun StorageTek 6140 アレイのサポート

Sun StorageTek 6920 システムは、外部ストレージとして Sun StorageTek 6140 アレイを接続することによって、その容量を拡張できます。外部ストレージの接続に関する詳細は、『Best Practices for the Sun StorEdge 6920 System』(819-7320-10)の「Working with External Storage」の章を参照してください。

6140 アレイを、外部ストレージとして設定するには、次の手順に従います。

1. Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアを使用して、6140 アレイ用の LUN を構成します。

Common Array Manager は、Ethernet または LAN のサブネットによって 6140 アレイに接続されている別の管理ホストプラットフォームで実行します。アレイの構成については、『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアインストールマニュアル』を参照してください。6920 システムで使用するためにアレイを構成する際は、Common Array Manager を使用して、6140 にイニシエータとして 6920 DSP 出力ポートを追加してしてください。このときのホストタイプは「Sun StorEdge」です。

---

注 – 6140 アレイが、6920 の外部ストレージとして使用される場合は、どのホストチャネルポートも、接続されているデバイスは 6920 だけでなければいけません。

---

2. それぞれのアレイコントローラのホストチャネル 1 のポートに接続されているファイバチャネルケーブルを使用して、6920 システムに 6140 アレイを接続します。  
データホストの接続については、『Sun StorageTek 6140 アレイ ハードウェアインストールマニュアル』を参照してください。
3. 6920 の構成管理ソフトウェアを使用して、raw ストレージである 6140 を表す LUN を初期化して、ストレージプールに配置します。

## 夏時間の更新

米国「2005年エネルギー政策法 (US Energy Policy Act of 2005、EPACT)」により、2007 年から米国内における夏時間 (DST) は、3 月の第 2 日曜日から 11 月の第 1 日曜までとすることが定められています。2007 年の開始日および終了日は、それぞれ 3 月 11 日と 11 月 4 日です。以前の米国の夏時間 (DST) の開始日は 4 月の第 1 日曜、終了日は 10 月の最終日曜でした。2006 年は、開始日は 2006 年 4 月 2 日 (4 月の第 1 日曜)、終了日は 2006 年 10 月 29 日 (10 月の最終日曜) でした。

この結果、システムの時計は、4 月ではなく 2007 年 3 月 11 日に夏時間 (DST) が適用されるよう更新されます。同様に、システムの時計は、10 月ではなく 2007 年 11 月に元の時刻に戻されます。この変更は、Sun StorageTek 6920 製品内の日時設定されている処理に影響を及ぼします。

夏時間 (DST) についての詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/dst>

このリリースには、2007 年の夏時間 (DST) 変更に対応した夏時間の更新パッチが含まれており、起こり得るエラーを減らします。

---

## サポートされるソフトウェアとハードウェア

次の節で説明するソフトウェアとハードウェアのコンポーネントは、Sun StorEdge 6920 システムで動作することがテストおよび確認されました。

- 5 ページの「サポートされる Web ブラウザ」
- 5 ページの「サポートされる追加のデータホストソフトウェア」
- 7 ページの「NetWorker PowerSnap Module ソフトウェア」
- 9 ページの「サポートされるファイバチャネルスイッチ、HBA、データホスト、およびオペレーティングシステム」
- 9 ページの「サポートされる言語」

## サポートされる Web ブラウザ

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.0.1 は、表 1 に示す Web ブラウザをサポートしています。

表 1 Sun StorEdge 6920 でサポートされるブラウザ (Common Array Manager 5.0 および Java Console 2.2.5)

クライアント OS	サポートされるブラウザの最低バージョン
Microsoft Windows 98、 Windows XP、Windows 2000、 Windows Server 2003	Microsoft Internet Explorer 5.5 Mozilla 1.4 Netscape Navigator 6.2 Firefox 1.0
Solaris 8、9、10 (Sun SPARC および x86 プラット フォーム)	Mozilla 1.4 Netscape Navigator 6.2 Firefox 1.0
Apple Mac OS X	Mozilla 1.4 Firefox 1.0
Red Hat Enterprise Linux Application Server 2.1	Mozilla 1.4
SuSE Linux Enterprise Server 8.0	Mozilla 1.4
Hewlett Packard HP/UX 11	Mozilla 1.4
IBM AIX 5.2	Mozilla 1.4

## サポートされる追加のデータホストソフトウェア

表 2 に示すソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を持つデータホストで使用するための互換性があります。

表 2 サポートされる Sun データホストソフトウェア

ソフトウェア	最低バージョン
Sun StorEdge Enterprise Storage Manager	3.0.1、および パッチ 117367- 01 を適用した 2.1
Sun StorEdge Availability Suite	3.2
Sun StorEdge Enterprise Backup Software	7.1*

表 2 サポートされる Sun データホストソフトウェア (続き)

ソフトウェア	最低バージョン
Solstice DiskSuite	4.2.1
Solaris Volume Manager ソフトウェア (Solaris 9 オペレーティングシステムに付属)	-
Sun StorEdge QFS	4.0
Sun StorEdge SAM-FS	4.0
Sun™ Cluster ソフトウェア	3.0.1、update 3

\* NetWorker PowerSnap Module は、Service Update 2 パッチを適用した Sun StorEdge Enterprise Backup Software の最低バージョン 7.2 を必要とします。

表 3 に示す他社製ソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を持つデータホストで使用するための互換性があります。

表 3 サポートされる他社製ソフトウェア

ソフトウェア	バージョン
VERITAS NetBackup Server	5.0 以上
VERITAS NetBackup Enterprise Server	5.0 以上
VERITAS Volume Manager with Dynamic Multipathing (DMP) for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS File System (VxFS) for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS Volume Replicator for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS Cluster Server (VCS)	3.5、4.0、および 4.1
Legato NetWorker®	7.1 以上

VERITAS 製品の現在のハードウェア互換性については、次の Web サイトを参照してください。

<http://support.veritas.com/>

# NetWorker PowerSnap Module ソフトウェア

Sun StorEdge 6920 システム用の NetWorker PowerSnap Module は Sun StorEdge Enterprise Backup ソフトウェアを拡張し、バックアップ中でも継続的なスナップショットベースのデータ保護と可用性を実現します。このモジュールが提供する機能の詳細については、『NetWorker PowerSnap Module For Sun StorEdge SE6920 Installation and Administrator's Guide』を参照してください。

## PowerSnap Module ソフトウェアのダウンロード

PowerSnap Module は、Sun Download Center (SDLC) <http://www.sun.com/download/> からダウンロードできます。このソフトウェアは、将来のリリースをターゲットとする Sun StorageTek Enterprise Backup Software 7.4 メディアキットに組み込まれるまで、掲示される予定です。

Sun StorEdge 6920 システム用の NetWorker PowerSnap Module を使用するには、次の tar ファイルを入手します。

- ps201\_solaris\_32.tar - NetWorker PowerSnap Module for SE6920 ソフトウェアの 32 ビット版パッケージ
- ps201\_solaris\_64.tar - NetWorker PowerSnap Module for SE6920 ソフトウェアの 64 ビット版パッケージ
- ps201\_solaris\_docs.tar - 『NetWorker PowerSnap Module for SE6920 Installation and Administrator's Guide and Release Supplement』

## 必要なソフトウェア

NetWorker PowerSnap Module for the Sun StorEdge 6920 システムは、Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.2 Service Update 2 ソフトウェアと一緒に使用する必要があります。

## NetWorker PowerSnap のライセンス

NetWorker PowerSnap Module は、Network または Power Edition 基本サーバーライセンスによってサポートされます。このモジュールの機能を有効にするには、基本サーバーライセンスのほかに、次のライセンスが必要です。

EBSIS-999-6824 NetWorker PowerSnap Module License for Sun 6000 Series

また、次のいずれかの容量ライセンス番号も必要です。

- EBSIS-999-6816 NetWorker PowerSnap Module 500 GB Capacity License
- EBSIS-999-6817 NetWorker PowerSnap Module 1 TB Capacity License
- EBSIS-999-6818 NetWorker PowerSnap Module 2 TB Capacity License
- EBSIS-999-6819 NetWorker PowerSnap Module 5 TB Capacity License

- EBSIS-999-6820 NetWorker PowerSnap Module 10 TB Capacity License
- EBSIS-999-6821 NetWorker PowerSnap Module 25 TB Capacity License
- EBSIS-999-6822 NetWorker PowerSnap Module 50 TB Capacity License
- EBSIS-999-6823 NetWorker PowerSnap Module 100 TB Capacity License

## 評価用資格コード

資格コードを使用すると、Sun StorEdge 6920 システム用の NetWorker PowerSnap Module を 45 日間試用できます。これらのコードは、NetWorker PowerSnap Module ソフトウェアと一緒にダウンロードした readme ファイルに記載されています。

このモジュールを実稼働環境で永続的に使用するためには、モジュールの資格コードを購入して入力し、入力後 45 日以内に、認証コードを登録する必要があります。

## インストールの手順

1. Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.2 パッケージをインストールします。

このソフトウェアパッケージは、Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.2 メディアキットのボリューム 1 の CD に入っています。また、次の Sun Download Center からダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/download>

2. 該当する次のいずれかの Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.2 SU2 パッチをインストールします。

- 116831-03 SPARC 32-bit
- 116832-03 SPARC 64-bit
- 116833-03 x86 client only
- 116834-03 L10N SPARC 32-bit

これらのパッチは、次の SunSolve からダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

3. NetWorker PowerSnap Module for Sun StorEdge 6920 システムソフトウェアパッケージをインストールします。

インストール手順の詳細については、『Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.3 Installation Guide』および『NetWorker PowerSnap Module for Sun StorEdge 6920 Installation and Administrator's Guide』を参照してください。

## NetWorker PowerSnap のマニュアル

NetWorker PowerSnap Module のマニュアルは、次の場所からオンラインで入手できます。

- Sun StorEdge Enterprise Backup Software 7.2 のユーザーマニュアル  
[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Software/Storage\\_Software/EBS/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Software/Storage_Software/EBS/index.html)
- NetWorker PowerSnap Module for Sun StorEdge 6920 のユーザーマニュアル  
<http://www.sun.com/download>
- Sun StorEdge 6920 システムのユーザーマニュアル  
[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network\\_Storage\\_Solutions/Midrange/6920/6920\\_30/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Midrange/6920/6920_30/index.html)

## サポートされるファイバチャネルスイッチ、HBA、データホスト、およびオペレーティングシステム

Sun StorEdge 6920 システムは、Sun StorEdge SAN Foundation ソフトウェアの version 4.4 (以上) でサポートされているすべてのファイバチャネル (FC) スイッチ、ホストバスアダプタ (HBA)、データホスト、およびオペレーティングシステムをサポートします。詳細については、ご購入先にお問い合わせください。

## サポートされる言語

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.0.1 は Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションをサポートし、表 4 に示す言語およびロケールをサポートしています。

表 4 サポートされる言語およびロケール

言語	ロケール
英語	en
フランス語	fr
日本語	ja

表 4 サポートされる言語およびロケール (続き)

言語	ロケール
韓国語	ko
簡体字中国語	zh
繁体字中国語	zh_TW

注 –

マニュアルページには英語版と日本語版だけがあります。

電子メール通知の各言語対応はこのリリースでサポートされていません。

## Release 3.0.1.26 へのアップグレード

このアップグレードは、Sun Service の技術者によって行われなければなりません。インストールまたは Release 3.0.1.26 へのアップグレードを行う場合は、Sun Service に連絡してください。

## システム利用上の制限

表 5 に、Sun StorEdge 6920 システムの要素の最大値を示します。

表 5 Sun StorEdge 6920 システムの制限

システム属性	最大
システムあたりのボリューム	1024 個のボリューム
トレイあたりの仮想ディスク	2 個の仮想ディスク
仮想ディスクあたりのボリューム	32 個のボリューム
ミラー化ボリューム	128 個 (256 個のミラー化コンポーネント)
ミラー内のコンポーネント	一次ボリュームを含めて 4 個
旧式ボリューム	128
ボリュームあたりのスナップショット	8 個のスナップショット

表 5 Sun StorEdge 6920 システムの制限 (続き)

システム属性	最大
拡張時のスナップショットリザーブ空間	最大 31 倍
事前定義されたプロファイル	15
システムあたりのイニシエータ*	256 個のイニシエータ
DSP ポートあたりのイニシエータ	128
ストレージプール	64 個のストレージプール
ストレージプロファイル	15 個のシステム定義ストレージプロファイル、ユーザー定義プロファイルは無制限

\* 「イニシエータ」という用語は、Sun StorEdge 6920 システムによって認識される「イニシエータインスタンス」を意味します。データホスト側の HBA ポートが「N」個のポートを認識する場合、システムは「N」個のイニシエータを認識します。256 個のイニシエータの制限のために、デュアルバスデータホストは最大 128 になります。この場合、各データホストの HBA ポートは、システムの 1 つのポートを認識できます。

# リリースのマニュアル

表 6 および表 7 は、Sun StorEdge 6920 システム関連のマニュアル一覧です。マニュアルの Part No. の末尾に *nn* が付いている場合は、最新版を使用してください。

次の Web サイトでマニュアルを検索できます。

- <http://www.sun.com/documentation>
- <http://docs.sun.com>

表 6 Sun StorEdge 6920 システムのマニュアル

主題	タイトル	Part No.
輸送用コンテナに貼付されている開梱指図書	Unpacking Guide	816-6385- <i>nn</i>
CLI クイックリファレンス	Sun StorEdge 6920 System <i>sscs(1M)</i> CLI Quick Reference Card	817-5228- <i>nn</i>
システム計画について	Sun StorEdge 6920 システムサイト計画の手引き	819-2864- <i>nn</i>
システム計画について	Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き Release 3.0	819-2859-10
管理	Sun StorEdge 6920 System Administration Guide For the Browser Interface Management Software, Release 3.0	819-0123-10
システムの規制および安全対策について	Sun StorEdge 6920 Series Regulatory and Safety Compliance Manual	819-0119- <i>nn</i>
初期設定と操作手順の簡単な説明	Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き	819-2859- <i>nn</i>

システムの概要情報やシステム構成、保守、障害追跡の基礎情報は、ソフトウェアに付属しているオンラインヘルプに記載されています。また、*sscs(1M)* のマニュアルページには、コマンド行インタフェース (CLI) を使ったストレージ管理に使用するコマンドに関する説明があります。

表 7 Sun StorEdge 6920 システムに関連するマニュアル

製品	タイトル	Part No.
推奨される方法	Best Practices for Sun StorEdge 6920 System (Version 3.0)	819-0122- <i>nm</i>
Sun Storage Automated Diagnostic Environment, Enterprise Edition	Sun StorEdge Automated Diagnostic Environment Enterprise Edition Version 2.4 ご使用にあたって	819-1233- <i>nm</i>
SAN Foundation ソフトウェア	Sun StorEdge SAN Foundation 4.4 Configuration Guide	817-3672- <i>nm</i>
Oracle Storage Compatibility Program	Sun StorEdge Data Snapshot Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3326- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Data Mirroring Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3327- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Data Replication Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3328- <i>nm</i>
Sun Storage Traffic Manager ソフトウェア	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Release Notes for HP-UX, IBM AIX, Microsoft Windows 2000 and 2003, and Red Hat Enterprise Linux	817-6275- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software User's Guide for IBM AIX, HP-UX, Microsoft Windows 2000 and 2003, and Red Hat Enterprise Linux	817-6270- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for Red Hat Enterprise Linux	817-6271- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for Microsoft Windows 2000 and 2003	817-6272- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for IBM AIX	817-6273- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for HP-UX 11.0 and 11i	817-6274- <i>nm</i>
Sun StorEdge ネットワーク ファイバチャネルスイッチ 8 およびスイッチ 16	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-8 および Switch-16 FRU 取り付けマニュアル	817-3230- <i>nm</i>
	Sun StorEdge 6920 System Administration Guide for the Browser Interface Management Software	819-0123- <i>nm</i>
	Sun StorEdge 6920 System Hardware Quick Setup poster	817-5226- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-8 および Switch-16 ご使用にあたって	817-3232- <i>nm</i>
	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-64 Release Notes	817-0977- <i>nm</i>

表 7 Sun StorEdge 6920 システムに関連するマニュアル (続き)

製品	タイトル	Part No.
Sun StorEdge Brocade スイッチのマニュアル	Sun StorEdge Network 2 Gb Brocade SilkWorm 3200/3800/12000 3.1/4.1 ファームウェアマニュアルの概要	817-3239- <i>nn</i>
Sun StorEdge McData スイッチのマニュアル	Sun StorEdge Network 2 Gb McDATA Intrepid 6064 Director マニュアルの概要 (ファームウェア 5.01.00 を含む)	817-3228- <i>nn</i>
拡張キャビネット	Sun StorEdge Expansion Cabinet Installation and Service Manual	805-3067- <i>nn</i>
ストレージサービスプロセッサ	Sun Fire V210 および V240 サーバ管理マニュアル	817-1441- <i>nn</i>
Solaris オペレーティングシステム	Sun 周辺機器使用の手引き	816-4631- <i>nn</i>

## Release 3.0.1, Build 26 の既知の問題

この節では、この製品リリース (3.0.1.26) に関する既知の注意事項について説明します。

### 6920 への接続に使用するファイバチャネルホストポートは、6140 アレイコントローラ 1 つにつき 1 つだけである

6920 アレイの仮想ディスク用のパスは、いずれも 2 つだけに制限されています。6140 アレイコントローラの複数のポートが 6920 アレイに接続されていると、この制限に違反します。コントローラごとに 1 つのポートだけを接続してください。

### データサービスプラットフォームのファンの交換

データサービスプラットフォーム (DSP) のファンは、FRU (現場交換可能ユニット) です。ファンを取り外す場合は、次の点に注意してください。



**注意** – ファンには、保護されていないファンブレードがあり、取り外し時にまだ回転している可能性があります。ファンをキャビネットから取り外す前に、ファンブレードの動きが完全に止まっていることを確認してください。

## 電子メール通知受信者のメッセージ優先度設定

電子メール通知受信者の追加または編集時に「優先度」パラメータを「すべて」に設定すると、操作の必要のない一般的なメッセージも含めて、受信者はシステムで発生するすべてのイベントのメッセージを受信ようになります。

操作の必要なイベントおよびアラームに対する通知メッセージのみを生成するには、「優先度」パラメータを「メジャー以上」または「クリティカル以上」に設定します。

## Release 3.0.1 に該当しないその他の既知の問題

### アレイのアップグレードの問題

アレイのファームウェアのアップグレード時に PatchPro がタイムアウトすると、ときどき問題が発生することがあります。データパス動作には影響ありませんが、アップグレードログにバッチのインストールに失敗したと示されます。現在、この問題は多数のアレイを持つ大容量システムだけで確認されています。

---

## ソフトウェアの問題点

次の各節では、今回の製品に関するソフトウェアの問題点 (バグ) を説明します。

- 16 ページの「構成および要素管理ソフトウェア」
- 33 ページの「データサービスプラットフォームのファームウェア」
- 35 ページの「Storage Automated Diagnostic Environment」
- 38 ページの「国際化」
- 40 ページの「その他」

バグに対して有効な推奨回避策がある場合は、バグの説明の次に示されています。

## 構成および要素管理ソフトウェア

この節では、構成管理ソフトウェアのブラウザインタフェースに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

### リモート複製の構成がサポートされない

**バグ 6493606** - 1つのポート上のリモート複製接続とほかの共有ポート上のホスト接続から成るリモート複製構成に失敗し、アップグレードに失敗することがあります。ホスト (入力) 接続は、リモート複製接続と同じプロセッサを共有できません。また、同様に、ストレージ (出力) 接続は、リモート複製のプロセッサを共有できません。

### 複製セットが起動しただけで 100% 同期完了を報告する

**バグ 6430940** - 複製セットの同期を開始すると、複製セットは最初の更新が送信されるまで同期完了 (100%) を示すことがあります。このため、複製プロセスが開始されたばかりなのに、ほとんど完了したかのように誤解される場合があります。

**回避策** - 完全に同期がとれたと見なす前に、状態が「Replicating」に変更されるまで必ず待ってください。

### キューが満杯になると、非同期複製セットが中断モードのままになる

**バグ 6427254** - 非同期複製の実行中、非同期キューまたはログが満杯になると、複製セットが中断状態へ移行する場合があります。これが発生するのは、複製セットの「queue full」動作が「suspend on queue full」に設定されている場合です。Autosync は、指定されたキュー満杯動作のために、この時点ではこの複製セットの同期を試みません。

**回避策** - Storage Automated Diagnostic Environment を監視し、次のようなキューサイズに関連するアラームがないかどうか調べます。アラームがある場合は、キューのサイズを大きくします。

```
Jun  2 08:28:51 dsp00 06/02/2006 15:28:18 LOG_WARNING
(REMOTE_REPLICATION: 3-4) The disk queue for group
600015d0-00226000-00010000-00015601 is physically 75 percent full
```

## 切断されたコンポーネントが存在している欠落した外部ストレージ 仮想ディスクを再度取り付けると、分割から回復できない

バグ 6429435 - 取り外したコンポーネントを必須分離ローカルミラーに再接続すると、取り外したコンポーネントは「なし」状態で「不明」条件のままになります。

回避策 - Sun Service に連絡し、DSP をリポートして状態を訂正してください。

## 予約済みのキーワードをストレージドメイン名に使用してはならない

バグ 6414829 - 次のいずれかの予約済みキーワードをストレージドメイン名として使用すると、システムの状態が不安定になる場合があります。

- description
- ip
- logical-port
- processor
- storage-port
- vlan

さらに、「desc」と「proc」というパターンを使用しないでください。その理由は、これらはそれぞれ、予約済みキーワードの「description」と「processor」に一致するためです。

回避策 - 次の予約済みキーワードを、どれもストレージドメイン名として使用しないでください。description、ip、logical-port、processor、storage-port、または vlan。

## Cx700 外部ストレージ仮想ディスクが適時に処理を継続せず、ホ スト入出力が失敗する

バグ 6401685 - EMC CLARiiON Cx700 Array に接続した Sun StorEdge 6920 システムは、Sun StorEdge SAN Foundation 4.4.8 ソフトウェアを必要とします。SAN Foundation 4.4.1 では、入出力操作のタイムアウトが早すぎて、たとえば 順次アップグレードやカード保守活動を途中で終了する場合があります。

回避策 - SAN Foundation ソフトウェアを version 4.4.8 に更新します。

## 複製状態がリンクのフェイルオーバー後に正しくなくなる

**バグ 6389703** - 複製セットの複製状態は、リンク状態などいくつかの要因によって決定されます。リンク状態は、複製状態に影響を及ぼしますが、必ずしも一致しません。たとえば複製セットが中断状態に置かれた場合、稼働状態のリンクは、複製セットを同期中の状態または複製中の状態へ自動的に移行しません。同様に、リンクが停止状態に変化しても、複製状態を自動的に中断状態にするわけではありません。

特に、リンクが停止状態へ移行したとき、複製セットは、更新同期のオーバーヘッドを避けるために、複製中の状態のままにされます。複製モードが非同期の場合、書き込みによって状態はキューイングに変化し、データは非同期ログに記録されます。複製セットが中断状態に置かれるのは、次の状況の場合だけです。

- 同期複製の場合のように、リンクの停止中に書き込みの整合性を維持できないとき
- 非同期ログが満杯のとき

**回避策** - スコアボードモードで、障害の後に複製セットを手動で変更します。

## NONE を整合性グループ名として使用すると、セット名またはグループ名が表示されない

**バグ 6381642** - Sun StorEdge 6920 システムで、None という名前の複製セットを作成すると、管理ソフトウェアは「複製セットの概要」ページを表示できなくなり、下記のエラーを表示します。また、その特定の複製セットに関する複製情報も表示されません。

予期しない内部システムエラー。操作をやり直し、エラーが解決しない場合は、ご購入先にお問い合わせください。

グループ名 None も sscs CLI で障害を起こし、次のエラーを表示します。

```
# sscs list -S RR repset ip-voll/1
```

予期しない内部システムエラー。操作をやり直し、エラーが解決しない場合は、ご購入先にお問い合わせください。

---

**注** - ワード「NONE」は予約語なので、整合性グループの作成に使用しないでください。

---

**回避策** - ワード「NONE」をグループ名として使用しないでください。

## 設定を同期から非同期へ変更するときに、「キューサイズ」の表記として「GB」を使用できない

バグ 6365512 - 同期モードから非同期モードへ変更するときに、キューサイズコマンドで GB、gb、または G を使用しようとする、エラー「Illegal asynchronous queue size format」が発生します。次に例を示します。

```
server:/home/test 76 % sscs modify -m async -q Default -Q 2G constgroup demo-cg
2G: Illegal asynchronous queue size format.
server:/home/test 77 % sscs modify -m async -q Default -Q 2GB constgroup demo-cg
2GB: Illegal asynchronous queue size format.
server:/home/test 78 % sscs modify -m async -q Default -Q 2gb constgroup demo-cg
2GB: Illegal asynchronous queue size format.
```

回避策 - 設定コマンドで MB 値を使用します。たとえば、2G バイトに設定するときには 2,000MB を使用します。

## FC ポートから誤った「リンク同期喪失イベント」値がレポートされる

バグ 6365148 - ファイバチャネルポートに誤って「リンク同期喪失イベント」が表示されます。これは、32 ビットワードのリンクステータスが逆になっているからです。たとえば、次の出力では「4294967296」と表示されます。16 進での値は 0x100000000 になり、同期の損失が 1 回だけ発生したことを示しています。

リンク同期喪失イベント : 4294967296

回避策 - 現時点ではなし。

## 再起動後に管理インタフェースカードと Element Manager に分割コンポーネントが表示されなくなる

バグ 6359244 - この問題は、次の条件の場合に発生します。

- ローカルミラーボリュームが多数ある
- 分割コンポーネントの数が多 (10 ローカルミラー (LM) ごとに 1 つの分割)
- ローカルミラーと分割コンポーネントがマップされている

親ローカルミラーボリュームにパターンを書き込み後に一部の分割コンポーネントを再結合し、ローカルミラーボリュームが再同期中にデータサービスプラットフォーム (DSP) を再起動すると、DSP への機能パワーが失われ、残りの分割コンポーネントの 1 つが管理インタフェースカードおよび Element Manager に表示されなくなります。

「デバイスを再走査」ボタンを使用してこのコンポーネントを再表示できますが、名前が変わります。使用中の設定が再起動時に保存された場合、この時点で分割コンポーネントの1つが失われます。通常、失われるのは最後の分割コンポーネントです。

**回避策** - 「外部ストレージの概要」ページの「デバイスを再走査」ボタンをクリックして、デバイスの構成の変化を確認するために、すべてのストレージとホストポートを走査するか、失われた分割コンポーネントを再表示します。ソフトウェアが「外部ストレージの概要」ページを更新するまでに、10～30秒かかることがあります。

## 主コンポーネントのミラー解除後に「ボリュームの詳細」ページに仮想ディスク情報が表示されなくなる

**バグ 6358103** - たとえば、LUN を 6 個持つボリュームグループが Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ゲートウェイに割り当てられている状態で、ヘッドを別の StorEdge 6120 アレイにある異なるプールプロファイルにミラー化すると、新しいプールにはトレイごとに1つずつ、合計2つの仮想ディスクが含まれます。

同期完了後に `break primary`、`break final mirror component` を実行し、6つのLUNを新しいプールの1つのボリュームにシフトすると、操作は正常に完了します。ただし、「ボリュームの詳細」ページには、プールに2つの仮想ディスクが表示されるはずですが、割り当てられた仮想ディスクが表示されません。

**回避策** - 「外部ストレージ」ページで「デバイスを再走査」ボタンをクリックし、「ボリュームの詳細」ページですべてのボリュームページの仮想ディスク情報を訂正します。

## CLI を使用して複製モードを非同期から同期に変更し、非同期に戻すと、キューサイズがデフォルトの 512M バイトになる

**バグ 6357963** - コマンド行インタフェース (CLI) を使用して非同期複製セットを非同期モードから同期モードに設定し、非同期に戻すと次のエラーが表示されます。

```
You cannot decrease the size of the virtual disk queue without first deleting it
```

同じ非同期複製セットを、ブラウザインタフェースを使用して変更しても、エラーは発生しません。ブラウザインタフェースは元のキューサイズを使用するのに対して、CLI ではキューサイズがデフォルトの 512M バイトになるからです。

**回避策** - 非同期複製セットを非同期モードから同期モードに変更し、非同期モードに戻す場合は、ブラウザインタフェースを使用してください。

## 小さすぎてメタデータ情報を格納できない仮想ディスクの初期化が可能

**バグ 6354472** - 仮想化された旧式ボリュームでは使用可能だった小さな論理ユニット番号を初期化してから外部プールに変換することが、たとえその仮想ディスク (たとえば 100M バイトの仮想ディスク) が小さすぎてメタデータ情報を格納できなくても許可すべきではありません。

**回避策** - 現時点ではなし。

## CLI では、連結プールからのボリュームの作成中にすべてのフラグのストライプ化が可能

**バグ 6354266** - コマンド行インタフェースを使用して連結ストレージプールからボリュームを作成する場合、`stripe all` フラグを使用すべきではありません。ブラウザインタフェースを使用して同じことをしようとすると、`stripe all` のオプションが表示されません。

`stripe all` コマンドの影響は、ボリュームがストライプ化されている場合と同様に、プール内の仮想ディスク全体のボリュームに及びます。確認されている悪影響はありません。

**回避策** - 現時点ではなし。

## イニシエータ名を再使用すると誤ったデバイスがマップまたはマップ解除される

**バグ 6341547** - マップされたイニシエータの名前を変更してから、以前の名前を別のイニシエータで使用すると、マップ情報が誤ったものになる可能性があります。

**回避策** - 可能であれば、名前を再使用しないでください。再使用する必要がある場合は、次の手順に従ってください。

1. イニシエータ A をマップ解除します。
2. 名前を B に変更します。
3. 新しいイニシエータに A という名前を付けます。
4. イニシエータ B を再マップします。
5. イニシエータ A をマップします。

## 最大ボリューム数までマップ済みのイニシエータにマップしようとするとエラーになる

バグ 6340957 - Sun StorEdge 6920 システムは、イニシエータごとに 256 の論理ユニット番号 (LUN) のマップをサポートしています。使用可能な LUN を持たないイニシエータにボリュームをマップする際に、LUN 番号を指定しなかった場合、つまり、システムに「使用可能な次の」LUN を検出するように求めた場合、正しいメッセージではなく次のメッセージが表示されます。

```
Unexpected internal system error. Retry the operation and then contact your Sun service representative if the error persists.
```

**回避策** - 空き LUN のある別のイニシエータにマップするか、希望するイニシエータで LUN を解放し、イニシエータごとに 256 の LUN のマップというシステムの制限を超えないようにします。

## 同じサブネット上の二次ゲートウェイをピアポートとして設定できない

バグ 6339002 - 以前にデフォルトゲートウェイとして設定されていたものと同じサブネット上にあるデフォルトゲートウェイでピアポートを設定しようとすると、操作に失敗して次のメッセージが表示されます。

```
予期しない内部システムエラー。操作をやり直し、エラーが解決しない場合は、ご購入先にお問い合わせください。The peer port operation failed due to an internal error (SP).
```

このエラーメッセージは内容が誤っています。操作に失敗したのは、1 つのサブネットに設定できるデフォルトゲートウェイは 1 つのみだからです。

**回避策** - ほかのピアポートとは別のサブネット上のデフォルトゲートウェイでピアポートを設定してください。

## 分割されているローカルミラーで「ミラー修復」を実行すると、誤ってミラーの分割が削除される

バグ 6332380 - ミラーボリュームを作成してからコンポーネントを分割すると、すべてが予想どおり機能します。ただし、ローカルミラーで repair mirror コマンドを実行すると、ローカルミラーから分割コンポーネントが削除されます。

**回避策** - 「外部ストレージの概要」ページで「デバイスを再走査」ボタンをクリックし、分割コンポーネントを再表示します。

## ストレージの入出力カードの停止が、Ethernet ポートのリンク停止状態変化のサブイベントとして表示される

**バグ 6325646** - カードが停止されたために Ethernet ポートの状態が LINK\_DOWN に変化すると、ストレージ入出力カードの停止が Ethernet ポート障害のサブイベントとして表示されます。

**回避策** - ギガビット Ethernet ポートで複製を有効にした状態で「リンク停止」イベントが発生した場合は、診断時にストレージ入出力カードの状態を確認してください。

## モードが不一致のまま整合性グループへ複製セットを追加後に、list repset details コマンドに失敗する

**バグ 6323551** - モードの不一致のために整合性グループへの複製セットの追加に失敗後、sscs list repset details コマンドが次のエラーで失敗します。

予期しない内部システムエラー。

---

**注** - listing consistency group details コマンドは成功し、listing repset details コマンドは失敗しています。

---

**回避策** - CIMOM を再起動します。list repset details コマンドが機能するようになります。

## ファイバチャネルの複製で使用されない設定済みポートがある

**バグ 6319103** - 複数のファイバチャネル (FC) ピアポートが有効な場合、完全複製同期が行われない場合があります。そのため、1 つのピアポートで 1 つの整合性グループの多数の複製セットが実行され、その他のピアポートでの複製セットの起動に失敗することがあります。

**回避策** - すべての整合性グループおよびスタンドアロン複製セットの設定後に、あるピアポートが複製に使用されていない場合は、使用されていないピアポートを削除してから設定し直します。約 2 分後、これによって再配分がトリガーされ、ポートごとの複製セットの数の均衡がとれます。

## 通信できなくなっているコンポーネントを再結合するとエラーになる

バグ 6312924 - 通信できなくなっている分割ミラーコンポーネントを再結合しようとすると、システムから次の一般的なメッセージが返されます。

```
./sscs modify -j volume 1_7_1_0-2
The create operation failed.
```

**回避策** - 再結合する前に、ミラーコンポーネントとの通信を回復してください。

## 整合性グループの作成時にビットマップ作成失敗エラーが発生すると、整合性グループが失われたというマークが付く

バグ 6312451 - 整合性グループを作成しようとして、プール内に使用可能なものがなかった場合、次のエラーが表示されます。

```
A bitmap distribution error occurred, ensure available capacity
in storage pool.
```

また、このとき、`sscs list constgroup` コマンドの表示で、その整合性グループに失われたというマークが付きます。

**回避策** - その整合性グループをデータサービスプラットフォーム (DSP) から手動で削除してください。

## Release 3.0.1 のバックアウトパッチで、2 つのアレイのいずれかのバックアウトが失敗する

バグ 6310593 - 2 つの StorEdge 6020 アレイで Release 3.0.1.5 をバックアウトするときは、バックアウトレポートを 2 回実行し、両方のアレイでバックアウトする必要があります。

**回避策** - 同じパッチ ID を持つコンポーネントが含まれている場合、「リビジョン管理 - アップグレード」ページでアップグレード対象として使用可能なすべてのコンポーネントは選択しないでください。

## ボリュームの仮想ディスクの詳細に未完了のステータスが表示されない

**バグ 6310434** - ボリュームの仮想ディスクの詳細を表示するときに、仮想ディスクのステータスが「正常」でなくても「正常」と表示されることがあります。

**回避策** - ブラウザインタフェースで表示が更新されていない場合は、「外部ストレージの概要」ページの「デバイスを再走査」ボタンをクリックし、仮想ディスクの状態を更新してください。

## 既存のボリュームをミラーボリュームに変更すると、ブラウザインタフェースですべての種類のコポーネントが使用中で失敗する

**バグ 6309175** - ブラウザインタフェースでオプションの分離と1つのコポーネントを使用し、ストレージプール、ボリューム、および旧式ボリュームからローカルミラーを作成すると、次の障害メッセージが表示されることがあります。

```
Mirror creation failed. The following errors occurred:  
lm-1 - The volume size specified is too large for the virtual disks  
in the storage pool specified
```

**回避策** - 次の2つの回避策があります。

1. ストレージプールと1つのボリュームを第2および第3のコポーネントとして使用し、既存のボリュームをミラー化します。
2. 第4のコポーネントとして旧式ボリュームを追加します。

または

1. 旧式ボリュームを第2のコポーネントとして使用し、既存のボリュームをミラー化します。
2. ストレージプールとボリュームを、第3および第4のコポーネントとして追加します。

## 切断されたボリュームからローカルミラーを作成しようとする、誤ったエラーメッセージが表示される

**バグ 6308290** - 切断されたボリュームからローカルミラーを作成しようとする、次のエラーが表示されます。

```
You cannot add an existing volume as an mirrored volume  
component for a new mirrored
```

これは、誤ったエラーメッセージです。

回避策 - 現時点ではなし。

### 新しいシステムで `sscs list revision` コマンドに失敗する

バグ 6307074 - 設置直後の新しい Sun StorEdge 6920 システムで初期起動時に、Host CD を使用して Solaris SPARC システムにソフトウェアをインストールする場合、`sscs list revision` コマンドを実行すると大量のエラーが発生します。

回避策 - 現時点ではなし。

### 両端でボリュームを並行して削除中に、StorEdge Network Data Replicator ソフトウェアが 1 つのユーザーボリューム削除でタイムアウトになる

バグ 6305366 - あるリモートミラー (RM) に複製セットが作成された直後の同期中に、両端で同時にその RM を削除しようとする、Sun StorEdge Network Data Replicator ソフトウェアがタイムアウトし、イベントログまたはエラーレポートが生成されません。

回避策 - 現時点ではなし。

## 外部ストレージから旧式ボリュームの作成中に誤ったエラーメッセージが表示される

バグ 6304579 - 外部ストレージから旧式ボリュームの作成に成功したときに、次のメッセージが表示されることがあります。

```
sscs create -e disk/3/1/1/0 -p Default -S DEFAULT volume bubb
Operation not supported; operation failed.
```

回避策 - 次の `sscs list volume` コマンドを実行し、ボリュームが作成されたことを確認してください。

```
sscs list volume name
```

## 異なるドメインから同じ整合性グループへの複製セットの追加をインタフェースが誤って許可する

バグ 6296378 - 異なるストレージドメインから同じ整合性グループへの複製セットの追加が、インタフェースで誤って許可されます。操作は成功しますが、整合性グループの既存のメンバーで予期しない結果が表示されることがあります。異なるストレージドメインから同じ整合性グループへの複製セットの追加はサポートされていない操作であり、行なうべきではありません。

回避策 - 異なるストレージドメインから同じ整合性グループに複製セットを追加しないでください。

## Sun StorEdge 6920 システム V2.0.5 で作成されたボリュームが、Release 3.0.1 で作成されたものよりわずかに大きくなる場合がある

バグ 6296000 - Sun StorEdge 6920 v.2.0.5 ソフトウェアを使用して作成した一次ボリュームが、Sun StorEdge 6920 v.3.0.1 ソフトウェアを使用して作成した二次ボリュームよりわずかに大きくなります。v.2.0.5 ソフトウェアで作成した一次ボリュームを複製しようとする、v.3.0.1 ソフトウェアで作成された二次ボリュームの大きさが十分でないことを示すエラーが表示される場合があります。その場合、もっと大きなボリュームを作成する必要があります。

回避策 - 複製する v.2.0.5 のボリュームサイズを格納できる、わずかに大きな Sun StorEdge 6920 v.3.0.1 の二次ボリュームを新規に作成します。

## 最初のピアポートと同じサブネット上に 2 番目のピアポートを作成する場合、デフォルトのゲートウェイアドレスが一致しないと失敗する

**バグ6295024** - 設定した複数のデフォルトゲートウェイが一致しない場合、2 番目のピアポートの作成が失敗し、Console のエラーメッセージが表示されます。

**回避策** - すべてのピアポートの作成に同じデフォルトゲートウェイを使用します。

## ジョブの実行中にログアウトすると、プロセスは停止されるがジョブの経過時間は止まらない

**バグ 6292502** - ジョブの実行中にストレージサービスプロセッサからログアウトするか、ユーザーセッションがタイムアウトすると、ジョブが永久に実行し続けるように表示されます。

再びログインすると、そのジョブは「現在のジョブ」ページに表示され、進行状況は進みませんが、経過時間は進み続けています。

このジョブは削除されて「過去のジョブ」ページに移動し、ステータスは「User Logout」または「Timed-Out」と表示されるべきです。

**回避策** - 「ジョブ」ページで、実行されていないジョブを取り消します。

## ボリューム状態が、ときどき誤って表示される

**バグ 6291118** - スナップショットリザーブのあるボリュームを作成すると、プールおよびプロファイルがときどき「Null」と表示され、そのボリュームでの以降の操作が制限されることがあります。

**回避策** - 「外部ストレージの概要」ページの「デバイスを再走査」ボタンを使用すると、ボリュームとプールの関連付けを変更できます。この操作によって、正しいボリューム状態が回復およびレポートされます。

## 仮想化旧式ボリュームを、サポートされる最大数の 128 を超えて設定できる

**バグ 6285494** - サポートされる最大数 128 よりも多くの仮想化旧式ボリューム (VLV) を設定しようとする、コマンド行インタフェース (CLI) で次のエラーが表示されますが、VLV が設定されます。

The maximum number of legacy volumes for the system has been exceeded.

---

**注** - ブラウザインタフェースでは、エラーメッセージが表示されません。

---

**回避策** - サポートされる最大数の 128 を超えて VLV を設定しないでください。

## 複製セットを設定しないとピアリンクが有効にならない

**バグ 6264635** - リモートシステムで 1 つ以上の複製セットが設定されていないと、複製リンクが「リンク有効」状態に移行しません。

---

**注** - 複製リンクを有効にするには、複製セットを作成する必要があります。

---

**回避策** - 現時点ではなし。

**回避策** - CIM クライアントアプリケーションは、ファイアウォールの既存の開いているポート番号の一つを使用する必要があります。Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションの「管理」、「ポートのフィルタリング」ページで、選択したポートが開いているものとして表示されることを確認してください。Pegasus と wbemservices のどちらのクライアントライブラリも、CIM インジケーションリスナーの設定に特定のポート番号を使用できます。開いているポート番号には、22 (ssl)、25 (smtp)、427 (slp)、443 (patchpro)、および 8443 (esm) があります。これ以外のポートも「管理」、「ポートのフィルタリング」ページに表示されますが、CIM インジケーションの送信先ポートに適していないポートもあります。

## ファームウェアの順次アップグレード後に、DSP がアップグレードノードの複製セットの削除に失敗してシステムエラーが表示される

**バグ 6260176** - データサービスプラットフォーム (DSP) ファームウェアで順次アップグレードを実行後、一次 DSP がデータ複製を再開できず、システムエラーが表示されることがあります。

**回避策** - 順次アップグレードの開始前に、すべてのリモート複製が中断されていることを確認してください。

## 新しいミラー化ボリュームの作成時にシステムの処理時間が長くなる

**バグ 6256116** - 「新規ボリューム」ウィザードを使用して新しいミラー化ボリュームを作成し、同時にそのボリュームをイニシエータにマップすると、システムの処理に時間がかかることがあります。

**回避策** - ミラー化ボリュームを作成するプール内の仮想ディスク数を 32 に制限します。

## 無効なアレイ名で仮想ディスクを作成すると、誤ったエラーメッセージが表示される

**バグ 6215190** - 無効なアレイ名で仮想ディスクを作成すると、次のメッセージが表示されます。

```
Default, couldn't find space.
```

**回避策** - このエラーメッセージが表示された場合、無効なアレイ名またはトレイ ID を指定しなかったかどうか注意して確認してください。

## 複製されたボリュームのミラー化に失敗する

**バグ 6205347** - 複製セットに設定済みのボリュームをミラー化しようとする時、システムが「The create operation failed」というエラーを返すことがあります。

**回避策** - なし。複製されたボリュームのミラー化は許可されません。

## 新しいストレージプールに再割り当てしたときに仮想ディスクが初期化し直されない

**バグ 5069434** - システムソフトウェアは、あるストレージプール用に作成された仮想ディスクを、ストレージプロファイルが異なる別のストレージプールに追加できません。仮想ディスクの元の属性は変更できないので、結果的に元のストレージプールの属性と一致しない属性を持つストレージプールに仮想ディスクが存在することになります。

**回避策** - あるストレージプールの仮想ディスクを、ストレージプロファイルが異なる別のストレージプールに再割り当てすることはできませんが、仮想ディスクを削除して、新しく作成することはできます。ボリュームを削除してから、仮想ディスクを削除してください。その後、目的のストレージプロファイルを持つストレージプールに新しい仮想ディスクを作成します。

## パスワードの変更が適用されないことがある

**バグ 5061119** - 「新規パスワード」フィールドまたは「確認」フィールドにパスワードを入力し、「パスワードの設定」をクリックしたときに、次のメッセージが表示されるにもかかわらず、実際には変更が加えられないことがあります。

「パスワードを変更しました。」

この場合、「古い」ユーザー名とパスワードを入力しても、ログインが承認されません。

**回避策** - パスワードの更新が受け入れられなかった場合は、パスワードを再び変更してください。

## 「ストレージを追加」ウィザードで無効なトレイが表示される

**バグ 5049258** - 「ストレージを追加」ウィザードは、ストレージをプールに追加するときに、誤って無効なトレイを選択肢に表示することがあります。

**回避策** - ストレージをプールに追加したあとで、(同じストレージプールを含む) プールにストレージをさらに追加する前に最低 1 分待ってください。

「ストレージを追加」ウィザードで各トレイに 2 つのエントリが含まれるトレイのリストが表示される場合は、操作を取り消し、もう 1 分待ってください。これによって、無効なトレイが表示されなくなります。

## 「ストレージプロファイルの詳細」 ページでプロファイル設定を 2 つのドライブによる RAID5 に設定できる

バグ 5010540 - 「ストレージプロファイルの詳細」 ページで、プロファイル設定を 2 つのドライブによる RAID5 に変更できます。

たとえば、次の手順を使用すると RAID-5 プロファイルに誤った数のディスクを設定でき、保存に成功します。

1. 「ストレージプロファイルの概要」 ページで 「User Profile」 を選択します。
2. 「RAID レベル」 リストで 「RAID-5」 を選択します。
3. 「ドライブ数」 リストで 「2」 を選択します。
4. 「保存」 をクリックします。

---

注 - 「Profile Creation」 ウィザードでは、ディスクの数が実際に確認されます。ただし、ユーザーが作成した既存のプロファイルの「ストレージプロファイルの詳細」では、ディスク数が変更可能で、ディスク数が確認されません。

---

回避策 - 「Profile Creation」 ウィザードを使用してください。

## ブラウザインタフェースが同じ名前を持つストレージプールのステータスを正しく表示しないことがある

バグ 4993083 - 異なるストレージドメインにあるストレージプールの名前が同一の場合、これらのストレージプールはブラウザインタフェースで正しく表示されないことがあります。

回避策 - 同じ名前を持つ複数のストレージプールがそれぞれ異なるドメインに存在する場合、「ストレージプールの概要」 ページには、そのうちの 1 つしか表示されません。フィルタ機能を使ってドメインで絞り込むと、ストレージプールの概要ページにそれぞれのストレージプールを表示できます。

ストレージプールの作成時に、システム全体で一意的な名前を割り当てます。

# データサービスプラットフォームのファームウェア

この節では、データサービスプラットフォーム (DSP) のファームウェアに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

## 整合性グループへの複製セットの追加に失敗した後、ボリュームが整合性グループに含まれたままになる

**バグ 6342044** - 整合性グループへの複製セットの追加中に障害が発生した場合、ボリュームが整合性グループに含まれたままのように表示されます。整合性グループからその複製セットを削除しても、問題が解消しません。

**回避策** - その複製セットを削除し、元のデータボリューム上に再作成してください。

## コンポーネントを 3 つ以上持つローカルミラーを作成すると、データパーティションが正しく配分されない

**バグ 6330647** - ストレージプール内に仮想ディスクが 2 つのみの構成で、3 つ以上のストレージプールのコンポーネント (既存のボリューム以外) によるローカルミラーを作成すると、システムは使用可能な 2 つの仮想ディスクにデータパーティションを配分しません。その代わりに、すべてのデータパーティションが 1 つの仮想ディスクからなる誤ったミラーが作成されます。2 つのコンポーネントのローカルミラーでは、2 つの仮想ディスクによる 2 つのデータパーティションが配分される必要があります。

**回避策** - プール内の仮想ディスクよりも多数のコンポーネントによるミラーを作成するには、コンポーネントを個別に作成してから、そのコンポーネントをミラー化してください。たとえば、ある程度独立した 2 つのデバイス上に 3 つのコンポーネントのミラーを作成するには、1 つの仮想ディスク上に 2 つのコンポーネントボリュームを個別に作成し、第 3 のコンポーネントをほかの仮想ディスクに作成し、3 つのコンポーネントを互いにミラー化します。

## 作成失敗後に整合性グループ名を使用できない

**バグ 6318853** - ビットマップまたは非同期キューを作成できないために新しい整合性グループでの複製セットの作成が失敗した場合、その整合性グループ名はその後の操作で使用できなくなります。

**回避策** - 失敗後は、別の整合性グループ名を使用してください。

## スナップショットのあるマップされていないローカルミラーから仮想ディスクを削除すると、仮想ディスクを再挿入したときに VSM エラーが発生する

**バグ 6306503** - スナップショットのあるマップされていないローカルミラーから仮想ディスクを削除すると、仮想ディスクを再挿入したときに **Virtualization State Manager** エラーが発生します。

**回避策** - ローカルミラーボリュームをイニシエータにマップしてから、仮想ディスクの削除と再挿入を行なってください。

## 役割の入れ替え後にボリュームが表示されなくなる

**バグ 6300069** - 多数のボリュームで役割入れ替え後に、一次サイトの一部のボリュームが表示されなくなることがあります。

**回避策** - 「外部ストレージの概要」 ページで「デバイスを再走査」 ボタンをクリックすると、表示されなくなったボリュームが回復されます。

## 順次アップグレードに成功しても LOG\_CRIT イベント (ICS Del Failed TIMEOUT) が発生する

**バグ 6282833** - カードを停止すると、次の log\_crit メッセージが返されることがあります。

```
06/08/2005 13:41:09 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  vcm_mic_remove_iscsi: ICS
Del failed TIMEOUT.  2-1, OSH ffffffff0-00028700-00002870-0000d576 [0xff]
```

**回避策** - このメッセージは問題にならないため、何もする必要がありません。

## ギガビット Ethernet の設定中に、予期しない excessive retries イベントおよび device unreachable イベントが表示される

**バグ 6338240** - ギガビット Ethernet が有効になっていると、非冗長 HA 状態 (外部ストレージ仮想ディスクへの経路が 1 つのみ) へ移行した外部ストレージ仮想ディスク上の監視ソフトウェアから「Excessive retries」 イベントおよび「Device Unreachable」 イベントを受け取る場合があります。

**回避策** - これらのメッセージは一時的なネットワーク障害で、通常は問題になりません。

## プロセッサのリセット後、ディスクの検出が不完全なため、LOG\_CRIT メッセージが誤って表示される

**バグ 6225669** - ソフトウェアのパニックなどが原因で、障害発生後にストレージリソースカード (SRC) のプロセッサが再起動した場合、次のメッセージのようなイベントが報告される場合があります。

```
02/03/2005 16:35:25 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  FAILED Setup connection
from 4/1 to 3/1, OSH 60003ba2-7ca6b000-4034919c-0006d196 [0xff], state:
0 status: CANT_CREATE_
02/03/2005 16:35:25 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  VCM: Remote 3/1 Connection
failed -2 to WWN = 60:00:3B:A2:7C:A6:B0:00:40:34:91:9C:00:06:D1:96
02/03/2005 16:35:25 LOG_INFO      (VCM: 5-0)  Scheduled to redistribute 4
ALUs in 120 sec.
02/03/2005 16:35:25 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  vcm_iscsi_t1_to_alu_cb:
iSCSI setup error state 0, status 19, ALU wwn
60:00:3B:A2:7C:A6:B0:00:40:34:8F:D1:00:0A:8C:A2
02/03/2005 16:35:25 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  vcm_iscsi_t1_to_alu_cb:
iSCSI setup error state 0, status 19, ALU wwn
60:00:3B:A2:7C:A6:B0:00:40:34:90:4F:00:07:62:35
02/03/2005 16:35:25 LOG_CRIT      (VCM: 5-0)  vcm_iscsi_t1_to_alu_cb:
iSCSI setup error state 0, status 19, ALU wwn
60:00:3B:A2:7C:A6:B0:00:40:34:90:F8:00:05:F4:50
```

一般に、Sun StorEdge 6920 システムが通常の高可用性 (完全に冗長) 状態に完全に回復している場合、これらのイベントは特に問題ありません。操作は必要ありません。

**回避策** - 表示されたメッセージを無視してください。

## Storage Automated Diagnostic Environment

この節では、Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

---

**注** - スタンバイスイッチファブリックカード (SFC) を交換した場合、再読み込みの完了時にカードが正しくスタンバイモードに戻った場合でも、対処可能なイベントが発生することがあります。

---

## 実際には仮想ディスクが削除されたときに、ボリュームが削除されたという誤ったメッセージが表示される

**バグ 6357771** - コマンド行インタフェース (CLI) に次のように表示されます。

The removal/reconfiguration of a volume has been detected.

実際には、仮想ディスクの削除および再設定は検出されていません。

このアラームまたはイベントは、対処不能ですが、重要なものではありません。

回避策 - 現時点ではなし。

## アレイ内のカードの LPC ファームウェアをアップグレードしても、「資産を生成」表示に更新の変更が表示されない

バグ 6335700 - LPC (ループカード) 上でファームウェア Release 7.21 を実行しているアレイがあり、Revision Maintenance コマンドを使用してファームウェアを Release 7.23 へ更新した場合、LPC カードが新しいバージョンのファームウェアを実行していることが Generate Inventory コマンドで示されません。アレイでの変化が何も伝達されません。

回避策 - Generate New Inventory コマンドを使用し、「保存」をクリックしてください。

## 電源リセット後、Storage Automated Diagnostic Environment ソフトウェアにアクセスできない

バグ 6352972 - 電源リセット後、システムが監視および診断ソフトウェアにアクセスできなくなる場合があります。すべてのページで、次のエラーが返されます。

An Internal Error occurred. The Storage A.D.E engine may not be responding.

回避策 - Sun Service に連絡し、Storage Service Processor をリポートします。

## 「リビジョン管理 - アップグレード」でボリュームの表示は変化するが、ボリュームデータが表示されない

バグ 6330817 - Release 3.0.1 へのリビジョンアップグレードのとき、「リビジョン管理 - アップグレード」ページで「影響を受けたボリュームを表示」ボタンをクリックすると、「影響を受けたボリューム - array00」ページは表示されますが、ボリュームデータは表示されません。

回避策 - 現時点ではなし。

## DSP パッチのインストール後に DSP ファームウェア資産の変化が表示されない

**バグ 6328928** - データサービスプラットフォーム (DSP) パッチをインストールし、新しい資産の生成後、DSP ファームウェアが以前のバージョンから変化したという通知が得られません。

**回避策** - 「新規資産の生成」 ボタンをクリックし、表示を更新してください。

## 複製を手動で中断すると、監視ソフトウェアが LOG\_CRIT イベントを表示する

**バグ 6327537** - 複製が中断されると、ユーザーコマンドで明示的に中断された場合であっても、イベントログに LOG\_CRIT イベントが表示されます。

**回避策** - 現時点ではなし。

## システムを保守用に予約後、新しい資産レポートの生成が成功しないことがある

**バグ 6311635** - Storage Automated Diagnostic Environment を使用してシステムを保守用に予約した (および予約時間を割り当てた) 場合、割り当て時間前に作業が終了し、システムを解放すると、資産レポートを生成できません。

**回避策** - 割り当てた保守時間が経過するのを待ってから、資産レポートを生成してください。

## Storage Automated Diagnostic Environment の Enterprise Edition と System Editions の間のアラーム管理の対話がない

**バグ 6264718** - Storage Automated Diagnostic Environment ソフトウェアの Enterprise Edition と System Editions の間に、論理接続が存在しません。各 Edition は別個のエンティティなので、ユーザーはこれらを別々に管理する必要があります。アラーム管理は一方の Edition から他方の Edition に伝達されません。

**回避策** - アラームの原因になった問題が解決したら、ラックにある Storage Automated Diagnostic Environment (SUNWstads) の System Edition、および Enterprise Edition (別の監視ステーションからラックをデバイスとして監視している場合) の両方の「Edition」 ページでアラームを手動で削除します。

これにより、それぞれのパッケージが正しい情報を表示します。

## コンポーネントを取り外し、交換したあとに表示される DSP スロット数が誤っている

バグ 6234925 - データサービスプラットフォーム (DSP) ボード FRU を取り外し、交換したあとに、Sun Java Web Console の「ラックコンポーネントの表示」ページに表示される DSP スロット数が誤っています。「デバイスの詳細」ページには正しい DSP スロット数が表示されます。

回避策 - 「ラックコンポーネントの表示」ページで DSP FRU 数を確認しないでください。設置されている DSP FRU の正しい数は「資産レポート」画面で確認してください。

## 「パフォーマンスデータ」ページが読み込まれない

バグ 6214849 - 「パフォーマンスデータ」ページを別のユーザーと同時に開こうとすると、ページが読み込まれません。

回避策 - 少し待ってから、ページの読み込みを再試行してください。

## 「ローカル情報通知」ページ: 「すべて」または「通知情報」を選択してはならない

バグ 4995950 - Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションの「ローカル通知情報」ページでリモート電子メール通知を設定するときに、「すべて」または「通知情報」を選択しないでください。いずれかを選択すると、障害を示していないイベントを含め、すべてのイベントに対して通知が送られます。

回避策 - 障害固有の情報についてのみ、障害通知を設定するときに「警告」、「エラー」、および「ダウン」を選択してください。

## 国際化

この節では、国際化と言語の翻訳に関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

## 構成管理ソフトウェア

### 地域対応版インタフェースで一部のボタン、ボックスオプション、およびジョブの説明が正しく表示されない

バグ 6239357 - 一部のボタン、ボックスオプション、およびジョブの説明は、ブラウザインタフェースを最初に起動した言語、または最初に操作を行なった言語で表示されます。

回避策 - 現時点ではなし。

### 「ジョブの詳細」ページに国際化されていないメッセージが表示される

バグ 6237308 - プール、仮想ディスク、またはボリュームの削除後、地域対応版インタフェースの「ジョブの詳細」ページに英語のメッセージが表示される場合があります。

回避策 - 現時点ではなし。

### 説明にフランス語の文字が含まれる場合、内部システムエラーが表示される

バグ 6272992 - 「一般設定」ページの「説明」フィールドに、「système」の「è」、 「tâches」の「â」などのフランス語の文字を保存しようとする、内部システムエラーのメッセージが表示されます。

---

注 - 複数バイトの文字を使用できるのは ja、ko、zh\_CN、および zh\_TW の各文字です。

---

回避策 - このテキストフィールドにフランス語の文字を入力しないでください。

## Storage Automated Diagnostic Environment

### 「通知の設定」ページのテキストフィールドで ASCII 以外の文字がサポートされない

バグ 6273563 - 「通知の設定」ページで保存された複数バイトの文字が「??」と表示されます。

**回避策** - このテキストフィールドには ASCII 文字だけを入力してください。

## その他

この節では、Sun StorEdge 6920 システムに関連するその他の既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

### Release 3.0.0 から Release 3.0.1 にアップグレードすると、一部のログメッセージが誤った重要度になる

**バグ 6352921** - 3.0 から V3.0.1 へのアップグレード後、誤った重要度の警告メッセージが大量に表示されます。

**回避策** - 現時点ではなし。

### Sun StorEdge 3510 アレイのポイントツーポイントファイバ接続モードで ISP の fclink テストに失敗する

**バグ 6330626** - ファイバチャネル (FC) 接続モードをループ状態からポイントツーポイントに変更すると、Sun Storage 3510 FC アレイがインターネットサービスプロバイダへの接続確立に失敗します。データサービスプラットフォームは、現在接続されたポイントのループアップおよびループダウンメッセージをレポートし続けます。

**回避策** - 現時点ではなし。

### 新しく作成したミラーのスナップショットを作成できない

**バグ 6328973** - 新しいミラーを作成し、関連付けられたミラーコンポーネントのものとは異なるストレージプールにスナップショットリザーブ空間を割り当てると、新しく作成したミラーのスナップショットを作成できません。

**回避策** - ミラーの作成後に、スナップショットリザーブ空間を削除してから再作成してください。この時点で、スナップショットリザーブ空間および関連するミラーコンポーネントに別のプールを指定できます。これはミラーだけに関する問題で、ボリューム作成およびスナップショットは予想どおり機能します。

## Storage Service Processor パッチのインストール後、DSP 資産が誤って変化したと表示される

**バグ 6327158** - Storage Service Processor パッチの適用後に資産を生成すると、データサービスプラットフォーム (DSP-1000) に誤って資産の変化がレポートされることがあります。

**回避策** - 現時点ではなし。

## 仮想化旧式ボリュームに対する「ミラー修復」コマンドが失敗する場合があります

**バグ 6325108** - 特定のミラーで「ミラー修復」コマンドを実行すると、失敗して一般的なエラーメッセージが表示されることがあります。失敗の理由としては、ミラーのコンポーネントのいずれかのプールに使用可能なストレージが不足しているなどがあります。これは、ミラーに旧式ボリュームがある場合によく発生します。旧式ボリュームに関連付けられた旧式プールには、使用可能な容量がないことが多いからです。

**回避策** - ミラーのコンポーネントのプールにストレージを追加するか、使用可能なストレージのあるプールからコンポーネントを追加してください。

## 多数の複製セットを使用する構成で、SSCS の CLI のポート有効化および無効化コマンドがタイムアウトになる

**バグ 6322093** - 16 の整合性グループに均等に配分された 128 個の複製済みボリュームセットがあり (120 個は同期、8 個は非同期)、二重リンク構成の設定およびティアダウンの時刻を決めるために短いシェルスクリプトを実行した場合、そのあとに 1 つのポートで新しいアドレスの設定を開始すると、長い時間がかかり (約 5 分間)、タイムアウトが `se6920ui` ログに記録されることがあります。タイムアウトの時点で、複製セットの再配分は実行中です。

---

**注** - 通常は、V210 システムプロセッサがインストールされている場合に発生しません。

---

**回避策** - 意図したピアポートとリンクの設定操作は正常に完了し、再実行の必要はありません。ただし、次のコマンドを使用して設定結果を確認してください。

```
sscs list etherport port-name
```

## ディスクが 300G バイトの場合、RAID-5 仮想ディスクに 8 台のドライブを使用できない

**バグ 6319525** - システムは 2T バイトの仮想ディスクをサポートしています。ただし、仮想ディスクの RAID-5 プロファイルを作成してから 8 台のディスク (RAID-5 7+1) を使用するトレイを選択すると、選択したものが 2T バイトよりも大きいというエラーが表示されます。

ブラウザインタフェースの「ディスクの概要」ページには、300G バイトドライブが 279.397 GB と表示されます。

---

**注** - 1 台のドライブはパリティデータに使用されるため、7 台のドライブの実際の容量は 2T バイト未満です。

$7 \times 279.397 \text{ GB} = 1.9558\text{T}$  バイト

---

**回避策** - 300G バイトのディスクドライブを使用する場合は、最大 2T バイトの記憶容量を持つ仮想ディスクを作成できないことに注意してください。

## Pegasus CIM クライアント上で

### SunStorEdge\_DSPStorageConfigurationService の GetClass が失敗する

**バグ 6318084** - Pegasus クライアントライブラリを使用する Storage Management Initiative Specification (SMI-S) CIM クライアントは、SunStorEdge\_DSPStorageConfigurationService の GetClass で CIMXML 構文解析エラーになります。その結果、クライアントは 6920 システムの設定に必要なメソッドを検出できなくなります。

**回避策** - 失敗したメソッドの SunStorEdge\_DSP.mof に Override 修飾子を追加するか、メソッドの名前を変更してください。

## 順次アップグレード中に、スイッチファブリックカードを停止すると障害通知が表示される

**バグ 6317192** - 順次アップグレード中にスイッチファブリックカード (SFC、たとえばカード 6) を停止すると、次のメッセージが表示されます。

```
SFC REDUND card 6 has FAILED - card 5 is SFC primary
```

このメッセージは、SFC の動作が一時的に停止しているだけにもかかわらず、誤って SFC の障害を示しています。

回避策 - メッセージを無視してください。

## ディスクドライブの故障で失敗後に、ドライブを交換しても仮想ディスクの作成が再開されない

バグ 6313151 - ディスクドライブが故障したために仮想ディスクの作成プロセスに失敗した場合、ディスクドライブを交換しても再開されません。

---

注 - ディスクドライブの障害後は Add storage to pool コマンドを再実行し、ハードウェアの交換後は必ず「デバイスの再走査」ボタンをクリックしてください。

---

回避策 - ディスクドライブの交換後は、仮想ディスクの作成を再実行してください。ディスクステータスが故障ディスクと示されたままであるために作成できない場合は、Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションの「アレイの詳細」ページ（「物理ストレージ」「アレイ」）の「アレイを再表示」ボタンを使用し、アレイステータスを更新してから仮想ディスクを作成してください。

## イベントログメッセージで、ポートがシステムポート ID ではなく物理ポート ID で識別される

バグ 6312185 - イベントログメッセージで、システムポートに 0x1040001 などの物理ポート ID がラベルとして表示されます。次に例を示します。

```
Aug 16 12:08:10 dsp00 08/16/2005 12:13:29 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link down on port 0x1040001
Aug 16 12:08:14 dsp00 08/16/2005 12:13:33 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link up on port 0x1040001
```

ポートには、システムポート ID がラベルとして表示されるべきです。次に例を示します。

```
Aug 16 12:08:10 dsp00 08/16/2005 12:13:29 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link down on port 1/7
Aug 16 12:08:14 dsp00 08/16/2005 12:13:33 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link up on port 1/7
```

回避策 - 次のアルゴリズムを使用し、物理ポート ID をシステムポート ID に変換してください。

ポート =  $S / ((P - 1) \times 2) + p$

ここで、

- S = ボードのスロット番号 (1、2、3、または 4)
- P = プロセッサ番号 (1、2、3、または 4)
- p = そのプロセッサのポート番号 (1 または 2)

例:

ポート 0x2010001 = ポート 2/1

ポート 0x2010002 = ポート 2/2

ポート 0x2020001 = ポート 2/3

ポート 0x3040002 = ポート 3/8

ポート 0x4030001 = ポート 4/5

## config\_solution スクリプトを使用して setgid コマンドを実行すると失敗する

**バグ 6283274** - Release 2.0.x から 3.0.x への移行中に t4\_rnid\_cfg スクリプトを実行した場合、setgid コマンドで -I スイッチは許可されていません。

**回避策** - /usr/local/bin/t4\_rnid\_cfg ファイルの最初の行を編集します。編集前の行は次のとおりです。

```
#!/usr/bin/perl -I/usr/local/lib/perl5 -- # -*-Perl-*-
#
# t4_rnid_cfg.pl -- script to configure T4 RNID parameters
```

この行を次のように編集します。

```
#!/opt/SUNWstade/bin/perl -U use lib "/usr/local/lib/perl5";
```

このあとで、config\_solution スクリプトを再実行してください。

## EVA の LUN 移動時間の大きな変動によって、フェイルオーバー中に旧式ボリュームデバイスに到達不能になることがある

**バグ 6281926** - アレイコントローラが通常モードで動作し、論理ユニット番号 (LUN) の移動が 2 分間以内で行われる場合、アレイのフェイルオーバー中にホスト入出力障害が発生してはいけません。通常の Enterprise Virtual Array (EVA) が最新のファームウェアで、最適な設定で動作している場合、この条件に当てはまるのがよくあります。

回避策 - 現時点ではなし。

## プロセッサの障害、ボリュームの移動、または設定の要求が発生するまで、システムが入出力エラーから回復しない

**バグ 6278220** - サービスコンポーネントまたはログコンポーネント上で入出力エラーが検出された場合、そのコンポーネントはサービス停止中としてマークされ、停止します。そのコンポーネントを再起動し、この状態を解消する唯一の方法は、プロセッサの障害、ボリュームの移動、または設定の要求によってボリュームを再表示するか、ボリュームを再起動することです。

回避策 - 現時点ではなし。

## 順次アップグレードが SAN 上の Sun StorEdge 6910 で失敗する

**バグ 6272710** - Sun StorEdge 6910 システム (ターゲットおよびイニシエータ) がファイバチャネル (FC) のストレージエリアネットワーク (SAN) 上に構成されている場合、順次アップグレードが失敗します。

回避策 - 6910 システムを 6920 システムとは別の FC スイッチゾーンに配置し、6920 システムと競合しないようにする必要があります。

## ウィザードの使用時に床屋の看板柱のアニメーションが機能しない

**バグ 6265292** - Microsoft Internet Explorer 6 でウィザードを使用時に「ウィザードの概要」ページで「終了」ボタンをクリックしても、進行状況を示す床屋の看板柱のアニメーション (回転) が表示されない場合があります。ウィザードとアプリケーションが凍結します。

回避策 - 処理が行われていないように見えますが、ウィザードが終了するまで待ちます。ウィザードが終了すると、ウィンドウが自動的に閉じます。

## 説明できない複製セットの作成の失敗

**バグ 6262621** - 一部のエラーはシステムを通じて中継されず、複製セットのエラー状態の原因が明らかになりません。

回避策 - 現時点ではなし。

## ボリュームサイズが小さいために、論理ミラーへの新規コンポーネントの追加がときどき失敗する

**バグ 6258661** - 新規に作成した論理ミラーへコンポーネントを追加しようとするとき、ときどき障害が発生します。追加操作を再試行すると、成功します。この原因は、追加されるミラーとボリュームおよびプールコンポーネントのサイズが小さい (50M バイト) ことにあります。

**回避策** - コマンドを再試行し、新しいミラーを追加します。

## アレイコントローラのフェイルオーバー中に、入出力エラーメッセージが表示される

**バグ 6258029** - ハードウェア障害やソフトウェア障害の発生によって、またはファームウェアアップグレードの実行中に、パートナーペアの一方のアレイコントローラがオフラインになると入出力エラーメッセージが表示される場合があります。

**回避策** - ボリュームを休止できない場合は、接続された論理ユニットの待機リストからそのボリュームを削除してください。

## 「アップグレードレポートの消去」操作によって「ジョブ」ページからジョブが削除され、ジョブをアーカイブするとアップグレードレポートが失われる

**バグ 6255586** - アップグレードレポートを消去すると、そのジョブと、そのジョブに関連するログファイルが削除されます。

たとえば、「パッチレポートを生成」を使用してから「ジョブ」タブを表示すると、そのジョブが完了したことが表示されます。次に、「パッチレポートをクリア」をクリックしてから「ジョブ」タブを表示すると、ジョブが削除されています。

あるタブでの操作がほかのタブに影響を与えますが、その関係は解消できません。

**回避策** - 現時点ではなし。

## Sun StorEdge 6130 アレイが AVT モードに設定されていないときに DSP からの通知がない

**バグ 6254707** - Sun StorEdge 6130 アレイを、Auto Volume Transfer (AVT) をオフに設定した状態で構成すると、ホストでアクセスに関する次のエラーメッセージが表示されます。

```
Illegal request due to current lun ownership
```

この問題を正確に示すイベントログのエントリが Storage Automated Diagnostic Environment に送信されません。

**回避策** - Sun StorEdge 6130 アレイの Auto Volume Transfer (AVT) をオンに設定してください。

## Microsoft Windows OS でスナップショットの再スナップ後にデータが使用できない

**バグ 6246981** - Windows オペレーティングシステムを使用している場合、再スナップ操作後に更新されたスナップショットデータを表示できない場合があります。

**回避策** - この問題が発生した場合、ドライブ文字を削除してから追加し直します。

## 誤って「マイクロヘアピン」構成を作成すると、順次アップグレードに失敗する

**バグ 6246328** - ストレージアレイとイニシエータの両方が (プロセッサ以外の) 同じ入力ポートにファイバチャネルスイッチで接続されている場合 (マイクロヘアピン構成を形成)、順次アップグレードを実行しようとしても失敗します。

---

**注** - これは、サポートされていない構成です。

---

**回避策** - ファイバチャネルスイッチを使用して、ストレージアレイとイニシエータを (プロセッサ以外の) 同じ入力ポートに接続しないでください。

## Storage Automated Diagnostic Environment で LOG\_CRIT iSCSI メッセージが誤ってログに記録される

**バグ 6245542** - この問題は、バグ 6225669 によく似ています。Sun StorEdge 6920 システムで、ケーブルが引き抜かれた、カードが停止した、プロセッサが潜在的なソフトウェアバグのために停止した、あるいは、システムが PatchPro アップグレードを実行しているなど、フェイルオーバーイベントがあると、次の LOG\_CRIT メッセージが生成される場合があります。

```
03/23/2005 13:19:23 LOG_CRIT (CONFIG: 0-0) iSCSI Target Lun 9999 on (tgt VSE
not created/1/4 to 3/4 - CANT CREATE TO VSE) not created
03/23/2005 13:19:23 LOG_CRIT (VCM: 5-0) FAILED Setup connection from 1/4 to
3/4, OSH 60003ba4-d345b000-42374ab6-000c7fb8 [0xff], state: 0 status:
CANT_CREATE_
03/23/2005 13:19:23 LOG_CRIT (VCM: 5-0) VCM: Remote 3/4 Connection failed -
2 to WWN = 60:00:3B:A4:D3:45:B0:00:42:37:4A:B6:00:0C:7F:B8
03/23/2005 13:19:23 LOG_CRIT (CONFIG: 0-0) iSCSI Target Lun 9999 on (tgt VSE
not created/2/3 to 3/4 - CANT CREATE TO VSE) not created
03/23/2005 13:19:23 LOG_INFO (VCM: 5-0) VCM Backup Resync Scheduled in 60
seconds, gen 11870
```

回避策 - エラーメッセージを無視してください。

## DSP のファームウェアアップグレード時にホスト入出力が失敗する

**バグ 6244623** - ストレージレイとイニシエータの両方が (プロセッサ以外の) 同じ入力ポートにファイバチャネルスイッチで接続されている場合 (マイクロヘアピン構成を形成)、Patchpro を使用したデータサービスプラットフォーム (DSP) のファームウェアアップグレード中に、ホスト入出力のデータフローが失敗することがあります。

---

注 - これは、サポートされていない構成です。

---

回避策 - ファイバチャネルスイッチを使用して、ストレージレイとイニシエータを (プロセッサ以外の) 同じ入力ポートに接続しないでください。

## 検索結果にプロファイルの説明が含まれない

**バグ 6233593** - プロファイルの説明が、ブラウザインタフェースの検索機能で検索されません。ボリュームの説明内の用語は検索されますが、プロファイルの説明内の用語は検索されません。検索では、大文字小文字は区別されません。

回避策 - 現時点ではなし。

## ボリュームの名前空間が大域的 - ドメインは名前空間の分割を意味する

**バグ 5095383** - ボリュームの名前空間はラック内で大域的ですが、個々のドメインが、個別のボリューム名を提供しません。

**回避策** - ストレージドメインが異なっても、個別のボリューム名前空間が提供されていないこと、そのため、すべてのボリューム名はシステム全体で一貫でなければならないということに、注意してください。

## ログインしようとするとうんぐアップする

**バグ 5057792** - storage アカウントを使用してブラウザインタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) にログインしようとしたときに、データサービスプラットフォーム (DSP) が応答しなかった場合、ログインがうんぐアップします。この問題を解決するには、DSP の電源を再投入します。

**回避策** - admin アカウントを使用してブラウザインタフェースまたは CLI にログインします。すると、うんぐアップは発生せず、DSP の電源を再投入する要求を送信できます。その後は、storage アカウントを使用してログインできます。

## Sun StorEdge 6920 システムの LUN で、fsck コマンドによるファイルシステムの構築の完了に長時間を要することがある

**バグ 5026163** - samfsck コマンドを使用し、Sun StorEdge QFS ファイルシステムのチェックを行なって Sun StorEdge 6920 システムの論理ユニット番号 (LUN) 上にファイルシステムを構築するのに長時間を要することがあります。

**回避策** - 構成およびシステム上の入出力読み込みによっては、たとえば 200G バイトのファイルシステムでは、ファイルシステムの構築には最高 45 分を要します。

## 起動/再起動: 直接接続のストレージデータホストの起動中にエラーが発生する

バグ 4969489 - 直接接続のストレージデータホストが Sun StorEdge 6920 システムに接続されていて、デバイスが自動トポロジモードで接続されている場合、最初の起動時に問題が生じることがあります。

回避策 - 次の値を使用して、データホストの /kernel/drv にある jfca.conf ファイルを編集します。

```
Loop FcLoopEnabled = 1;
FcFabricEnabled = 0;
Fabric FcLoopEnabled = 0;
FcFabricEnabled = 1;
```

---

## 既知のマニュアルの注意事項

次の項目では、マニュアルに関する既知の注意事項について説明します。

- 50 ページの「sscs CLI のマニュアルページの訂正」
- 51 ページの「『ご使用の手引き』の訂正」
- 53 ページの「システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正」
- 57 ページの「『Best Practices Guide』の訂正」
- 58 ページの「その他のマニュアルの誤り」

## SSCS CLI のマニュアルページの訂正

ここでは、sscs のマニュアルページの訂正について説明します。各コマンドを次のように訂正してください。

```
create profile
```

-v コマンドオプションの説明で、「-v,--virt-strategy striped|concat」は、正しくは「-v,--virt-strategy stripe|concat」です。

## list initiator

「Examples (例)」の節の「Response Format (応答の形式)」で、「Description: <initiator-name>」は、正しくは「Description : <initiator-description>」です。

## modify volume

-S, --sdomain オプションの説明で、「Specify the storage domain volume operands (ストレージドメインのボリュームオペランドを指定します)」は、正しくは「Specify the storage domain (ストレージドメインを指定します)」です。

## ボリュームのスナップショットリザーブ空間の拡張

次のような例が示されていますが、これはあとに示す例に読み替えてください。

```
sscs -C 8 -L high -S MyDomain volume MyVolume
```

変更後:

```
sscs snapshot -C 8 -L high -S MyDomain volume MyVolume
```

## 『ご使用の手引き』の訂正

この節の訂正事項は、『Sun StorEdge 6920 ご使用の手引き』(Part No. 819-2859-10)に適用されます。

## Sun StorEdge 9960 システムを 6920 システムの外部ストレージデバイスとすることはできない

**バグ 6373801** - 『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』(Part No. 819-2859-10)の「サポートされるストレージデバイス」の節で、「Sun StorEdge 9960 システム」がサポートされる外部ストレージデバイスのリストに示されています。しかし、Sun StorEdge 9960 システムはサポートされていないので、Sun StorEdge 6920 システムに外部ストレージデバイスとして接続しないでください。

**回避策** - 現時点ではなし。

## 「リモートスクリプト CLI クライアントの使用」節のコマンドの誤り

バグ 6307091 - 「システムへのログイン」節の次の段落は誤りです。

/opt/se6920/cli/bin/sscs コマンドを使用して、リモート管理操作を実行します。リモート管理操作についての詳細は、sscs (1M) のマニュアルページを参照してください。

回避策 - この段落を次のように訂正します。

/opt/se6x20/cli/bin コマンドを使用して、リモート管理操作を実行します。リモート管理操作についての詳細は、sscs (1M) のマニュアルページを参照してください。

## 電源投入の説明で、ストレージサービスプロセッサの緑色の LED についての記述がない

バグ 6306615、6307088 - 『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』では「AC 電源シーケンサの回路遮断器を押してオンにしてから約 1 分待ちます。」という手順が、次の 2 つの節にあります。

- 「システムへの電源投入」
- 「完全停止後のシステムへの電源の再投入」

回避策 - この手順のあとには、次の手順が必要です。

「バージョン 210 のストレージサービスプロセッサでは、前面左のベゼルの LED が緑に点灯し、オペレーティングシステムが起動して実行中であることを確認してから、残りのラックコンポーネントの電源を投入します。」

## デフォルト構成オプションの節の説明

バグ 6242746 - デフォルトのストレージプロファイルには専用のホットスペアが含まれません。専用のホットスペアは、アレイ内で特定の仮想ディスクの障害が発生したときに、フェイルオーバーに使用される予備のディスクです。専用のホットスペアを含むようにアレイを再構成するには、「新規ストレージプロファイル」ウィザードを使用して新しいプロファイルを作成し、専用のホットスペアの属性を有効にします。

回避策 - アレイ内のアレイスペア数も再構成できます。「Sun StorEdge 6920 Configuration Service」->「物理ストレージ」->「アレイ」を選択し、変更するアレイの名前をクリックします。「アレイの詳細」ページにアレイの属性が表示され、また変更できるフィールドが含まれます。アレイ内で 0 ~ 8 個のアレイのホットスペアを指定できます。sscs の modify array コマンドを使用してアレイを変更することもできます。

# システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正

この節の訂正事項は、『Sun StorEdge 6920 System Administration Guide』(Part No. 819-0123-10) とオンラインヘルプの両方に適用されます。

## 完全停止後のシステム復元

この手順が変更されました。『Sun StorEdge 6920 System Administration Guide』内の既存の手順を、次の手順に置き換えてください。

完全停止手順による電源切断後にシステムを復元するには、システムの設置場所で次の手順に従う必要があります。

1. ベースキャビネットとすべての拡張キャビネットの前面と背面のドアを開きます。
2. それぞれのキャビネットから、前面の飾りパネルを取り外します。
3. AC 電源ケーブルが、正しい AC コンセントに接続されていることを確認します。
4. 各キャビネットの前面下部および背面下部で、AC 電源シーケンサの回路遮断器を上げてオンにします。

前面と背面の両方の電源ステータス発光ダイオード (LED) が次の順序で点灯し、前面の電源シーケンサのステータスが表示されます。

- 主 AC 電源 LED (キャビネットに電源が供給されると点灯)
- Sequencer Stage 1
- Sequencer Stage 2

---

注 – 各コンポーネントが完全に起動するのを待ってから、次のコンポーネントの電源を投入する必要があります。

---

5. ストレージアレイの電源を投入します。



---

注意 – ストレージアレイが完全に起動する前に DSP の電源を投入すると、システムはストレージボリュームを認識できず、接続されていないと誤ってレポートします。

---

6. データサービスプラットフォーム (DSP) の電源を投入します。
7. システムの背面にあるストレージサービスプロセッサの電源スイッチを押してオンにします。
8. すべてのコンポーネントで、緑の LED だけが点灯していることを確認します。

## 9. 前面の飾りパネルを取り付け、すべてのドアを閉じます。

これでシステムが動作し、リモートで電源をオンにする手順をサポートするようになります。

## 整合性グループ内での複製セットの合成

この手順が変更されました。現在の手順を、次の手順に変更してください。

多数の複製セットを作成済みで、それらを整合性グループに含める場合は、次の手順例に従って行なってください。この例では、複製セット A および複製セット B が独立した複製セットとして存在しています。一次ピアと二次ピアの両方で、次の手順に従ってください。

1. 複製セット A および B と同じストレージドメイン内に一時ボリュームを作成するか、未使用のボリュームを探します。
2. リモートピアの WWN (ワールドワイドネーム) を調べます。  
この情報は、どちらかの複製セットの「詳細」ページにあります。
3. 複製セット C を作成する一時ボリュームまたは未使用ボリュームを選択し、そのボリュームの「詳細」ページで「複製セットの作成」ウィザードを起動します。  
複製セット C を作成するのは、整合性グループを作成するためです。この複製セットは、あとの手順で削除します。
4. 「複製セットの作成」ウィザードで次のことを行います。
  - a. 複製セットを作成するための一時ボリュームまたは未使用ボリュームを選択します。
  - b. 「複製ピアの WWN」フィールドにリモートシステムの WWN を入力します。
  - c. 「リモートボリュームの WWN」フィールドには、すべてゼロを入力します。次に、「次へ」をクリックします。
  - d. 「整合性グループの新規作成」オプションを選択し、整合性グループ G の名前と説明を入力します。「次へ」をクリックします。
  - e. 問い合わせに対して複製属性と複製ビットマップを指定し、選択内容を確認し、「終了」をクリックします。
5. 複製セット A の「詳細」ページで「グループに追加」をクリックし、複製セットを整合性グループ G に追加します。
6. 複製セット B の「詳細」ページで「グループに追加」をクリックし、複製セットを整合性グループ G に追加します。

- 複製セット C の「詳細」ページで「削除」をクリックし、複製セットを整合性グループ G から削除します。

複製セット A および複製セット B が独立したものではなくなり、整合性グループの一部になりました。

## Fast-Start Feature の記述に、操作時にアプリケーションを休止状態にするという説明がない

**バグ 6225134** - Fast-Start Feature の説明には、Fast-Start Feature はアプリケーションを休止して実行するという説明がありません。Fast-Start Feature の完了後、ユーザーはアプリケーションを休止状態から解除できます。

### 回避策 -

オンラインヘルプの「Synchronizing Data Using a Backup Tape」手順に、次のステップを含める必要があります。

1. 一次ボリュームにアクセスするアプリケーションを休止します。必要に応じて、ボリュームをマウント解除します。

オンラインヘルプの「Synchronizing Data Using a Backup Tape」手順に、次のステップを含める必要があります。

9. アプリケーションを休止解除します。

## Synchronizing Data Using a Backup Tape

バグ 6428911 - マニュアルのこの節に、テープを二次ピアに復元した後、「Suspend with Fast Start」の追加手順が必要です。この手順は、テープ復元プロセスによって二次ピア上に設定されていたビットをクリアし、後続の「resume with Normal option」の手順で、アプリケーション再開後に書き込まれたデータだけを転送できるようにします。次の変更されたマニュアルの手順は、これらの手順を説明し、アプリケーションの休止手順と再開手順についても説明しています。

**回避策** - 「Synchronizing Data Using a Backup Tape」の節を、次のように訂正します。

リモートピア上にデータのコピーを設定するとき、データ複製入出力トラフィックを最小にするには、一次ボリュームのバックアップテープのコピーを使用してコピーを行い、二次ボリューム上のデータと同期させます。

バックアップテープを使用してデータを同期させるには、一次ピアと二次ピアで次のステップを実行します。

1. 一次ピアと二次ピア上に複製セットを作成します。
2. 一次ピアで、一次ボリュームにアクセスするアプリケーションを休止させます。
3. 一次ピアで、ファイルシステムを休止させます。  
必要に応じて、ボリュームをマウント解除します。
4. 一次ピアで、「中断」をクリックし、「高速開始」オプションを選択します。  
これにより、一次ビットマップがクリアされます。
5. 一次ピアで、データをテープにバックアップします。  
これにより、ブロックベースのディスクイメージが作成されます。
6. 二次ピアで、「中断」をクリックし、「高速開始」オプションを選択します。  
これにより、二次ビットマップがクリアされます。
7. 一次ピアで、「再開」をクリックし、「通常同期」を選択します。  
これにより、二次ピア上の「sync needed」フラグがクリアされます。このフラグがクリアされていないと、手順 10 で二次ボリュームに書き込みができなくなります。

---

**注** - 両方のビットマップがクリアされたので、このステップで一次から二次へ転送されるデータはありません。複製セットは、複製中モードのままで残ります。

---

8. 一次ピアで、「中断」をクリックし、「高速開始」オプションを選択します。  
これにより、セットは中断状態に戻り、アプリケーションを休止させる準備が整います。また、ビットマップが確実にクリアされます。

9. 一次ピアで、一次ボリュームにアクセスするアプリケーションの休止状態を解除します。
10. 二次ピアで、バックアップテープからデータを復元します。  
これにより、ビットマップ内のビットもセットされます。
11. 二次ピアで、「中断」をクリックし、「高速開始」オプションを選択します。  
これにより、二次ビットマップがクリアされます。この時点で、いずれかのビットマップ内でセットされるビットは、手順 9 でアプリケーションが再開された後に一次ボリュームに書き込まれたデータに対応するビットだけです。
12. 一次ピアで、「再開」をクリックし、「通常同期」を選択します。  
これにより、アプリケーション再開後に書き込まれたデータが転送されます。

## コアファイルについて

**バグ 6206619** - オンラインヘルプの「コアファイルについて」のページには、次の誤解を与える文章があります。

システムソフトウェアは、デバイス 1 つにつきコアファイルを 5 つまで保持します。

**回避策** - この文章を次のように訂正します。

システムソフトウェアは、Sun StorEdge 6020 アレイ用に最後のコアファイル、およびデータサービスプラットフォーム (DSP) 用に最大 5 つのコアファイルを保持します。

また、この項目の最後にある「注」は Sun StorEdge 6020 アレイだけに適用されません。DSP は保存された最も古いコアファイルから順に上書きし、最大 5 つのコアファイルを保存します。

## 『Best Practices Guide』の訂正

この節では、『Best Practices for the Sun StorEdge 6920 System』(Part No.819-3325-10) の訂正および追加内容について説明します。

### リモート複製

この内容が変更されました。現在の節を、次の内容に変更してください。

Sun StorEdge 6920 システムの Release 3.0.1 では、リモートデータ複製のサポートが追加されました。この機能を使用すると、ボリュームのデータを二次ストレージデバイスへ連続してコピーできます。この二次ストレージデバイスは、元の (一次) スト

レージデバイスから離れた場所に設置してください。一次ストレージデバイスで障害が発生した場合は、二次ストレージデバイスが即座に一次デバイスになり、オンラインになります。

複製プロセスでは、最初に障害回復サイトにある二次ストレージデバイス上に、一次データの完全なコピーが作成されます。複製プロセスでは、このコピーを基礎としてデータの変更がすべて記録され、変更内容が二次サイトに転送されます。

適切なセキュリティーの設定方法については、CSO (Client Solutions Organization) までお問い合わせください。

## 外部ストレージの仮想ディスクへの接続が 3 つ以上あると、順次アップグレードおよび障害インジェクションに失敗する

バグ 6346360 - 『Best Practices for the Sun StorEdge 6920 System』に、次の制限事項を説明する必要があります。

ディスクに外部ストレージの仮想ディスクへ 3 つ以上の接続が設定されていると、順次アップグレードおよび障害インジェクションに失敗します。

回避策 - 現時点ではなし。

## その他のマニュアルの誤り

### リモートミラーの完全データ同期で、二次ボリュームのマウントがチェックされない

バグ 6227819 - リモートミラーの完全データ同期で、二次ボリュームがマウントされているかどうかチェックされません。その結果、完全同期の完了直後はユーザーがデータを使用できません。

回避策 - 現時点ではなし。

---

## サービスに関する問い合わせ先

Sun StorEdge 6920 システムまたはその他の Sun 製品について追加の情報が必要な場合は、次の Web ページから Sun のカスタマーサービスに問い合わせてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

